

2024年度 調査結果ダイジェスト

田口正男（農学博士）東京農業大学

1 シオカラトンボ16・3kmの移動。2024年度の移動確認は全5頭に

トンボはドコまで飛ぶか調査の醍醐味は何と云っても標識個体が再捕獲され、そこから移動が確認されることだ。前年度はウチワヤンマで32・6kmという大記録が生まれたが、今年度2024年調査ではそれほどではないにしても、なじみの深いシオカラトンボで16・3kmという距離が出た。もつともありふれた種類であるだけに、逆に普遍性のある記録であるともいえる。実は、このシオカラトンボ、再捕獲率を調べてみるとところこれによって移動が判明できる確率は538個体放して、初めて1頭得られることがわかった。現在、この種では18の移動データが得られているが、調査全体では11種41個体となり、これはとつともない貴重なものと言える(表参照)。

2 シオカラトンボ、臨海部本調査でついに482頭捕獲

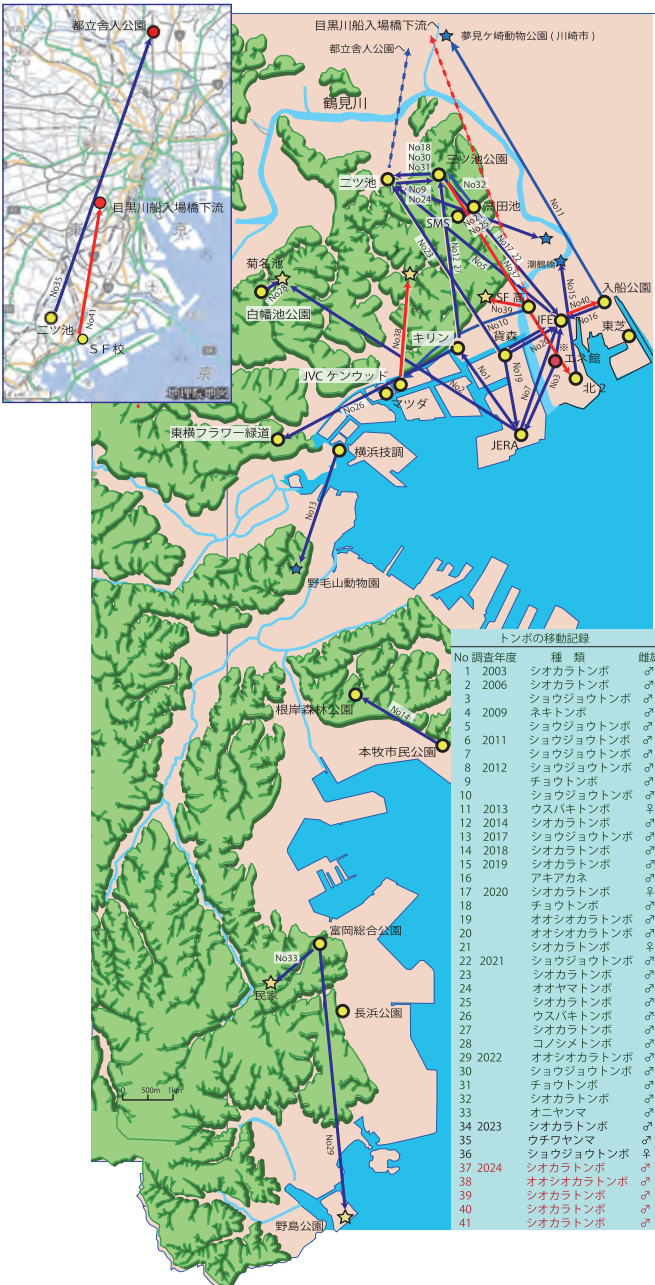
次も、またまたシオカラトンボの話だ。本調査では、毎年、シオカラトンボがトップの捕獲数であることはもちろんのこと、この7年間のうちなんと5年間は新記録の更新がなされていた。そして、今年度2024年は臨海部本調査482頭でまたまた記録更新となった。ところで、この記録更新の右肩上がりのグラフは、気象庁発表の年間気温のグラフによく似る。あたかも、この暑さの勢いに乗っているようだ。この種はご存じの通り、みは体にワックスの一種である白粉をまもっていて、これにより紫外線対策をしているという。しかも、今、減少が叫ばれているアカネ属をよく食べるのだ。アカアカネの減少、特に都会での減少と無関係であるのか、調べてみる必要もあるのでは。

3 富岡総合公園、本調査でコノシメトンボ多数捕獲

今年度は、アカネ属の減少が懸念されるなか、逆に増加するアカネ属も現れた。数年前、白幡池公園でのトンボとり大作戦の時に多数出現したコノシメトンボである。もともと横浜では多いトンボではなかったが、こうした種が多数派となりつつある。そしてその原因は、白幡池公園の時に調べたのであるが、どうも新型コロナウイルスらしいのだ。これにより使われなくなったプールの影響で、この種がよく育ち増加したというのだ。学校によっては、プール掃除の際にバケツに何杯ものヤゴが回収されたという。二十数年前にはノシメトンボが増えて人々を楽しませた。魚の世界でも、アジダイワシだという種交代という現象があった。5〜6年調べた程度で、アカアカネの減少の原因を単純に1つだとは決めつけられないことを物語っている。

4 マユタテアカネ、二ツ池で5頭捕獲

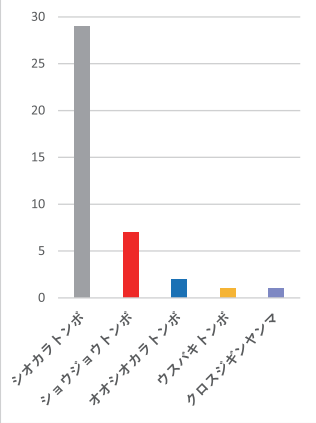
コノシメトンボほどではないが、二ツ池でマユタテアカネが増え始めている。水辺に樹木がある池を好み、ほとんど移動もしない。アカアカネやノシメトンボとは外見は似ていても、生活様式は異なっているものたちである。22年という時間の中ではシオカラトンボでさえ、シヨウジョウトンボとの個体数の逆転を許している。この先30年目を目指すなか、どのような新現象が待っているのがあるうか、その繁栄を見守りたいものである。



本調査

8月に企業・市民・専門家・教育機関・行政が協働で実施している調査。各調査地点3回実施。
 ①マーキング種数と頭数 ②トピック（各調査地の代表者がコメント）*縦軸は3日間合計の捕獲個体数

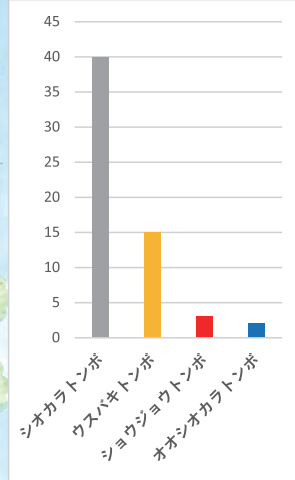
株式会社 JVC ケンウッド



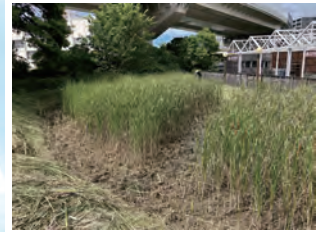
①5種40頭
 ②14年ぶりにクロスジギンヤンマを捕獲し、種類も5種捕獲と非常に盛り上がった本調査となりました。ギンヤンマと思われる大型のヤゴも確認でき、次回の調査も期待大です。



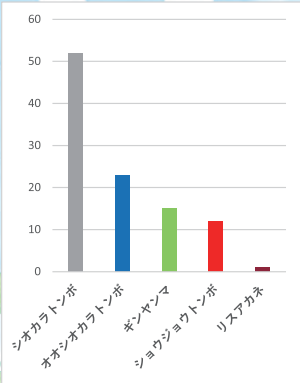
キンビール株式会社 横浜工場



①4種60頭
 ②今年はシオカラトンボが大変多い年でした。今後もビオトープを整備し、生態系ネットワークの強化を図ります



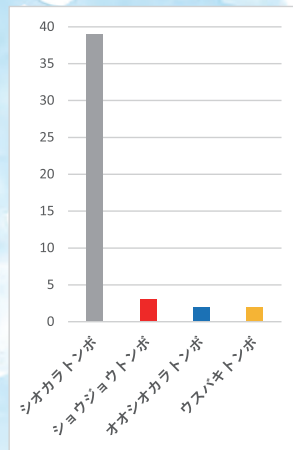
株式会社 JERA 横浜火力発電所



①5種103頭
 ②今年も多くシオカラトンボ、ギンヤンマが確認できました。調査前にはショウトンボも目視でき、来年は捕獲できることを祈ってます。



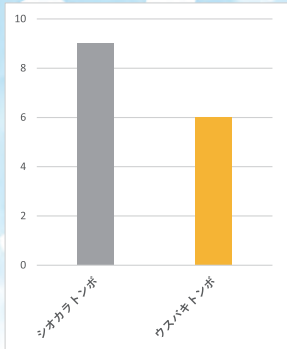
JFE エンジニアリング株式会社 横浜本社 JFE トンボみち



①4種46頭
 ②ギンヤンマは捕獲できませんでしたが、何度も飛来してきました。横浜市の職員さん、お隣のAGCさん、JFE社員らの調査員の皆さんに感謝です。



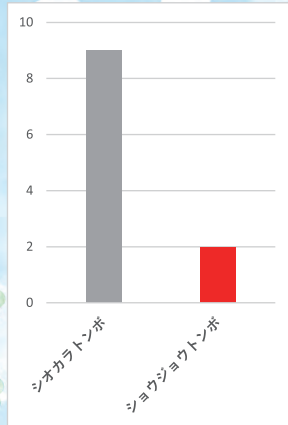
マツダ株式会社マツダ R&D センター横浜



①2種15頭
 ②今年度の捕獲数は昨年実績から倍増した結果になりました。2年連続の捕獲数増加ということで、次は種類が増えることも期待し、早くも来年度の調査を楽しみにしています。



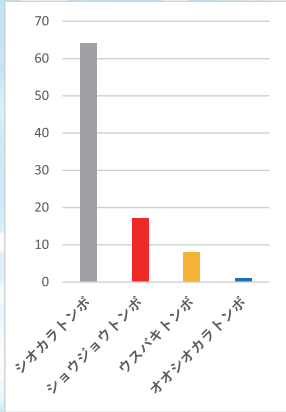
東芝エネルギーシステムズ株式会社 京浜事業所



①2種11頭
 ②捕獲のチャンスが少ない調査地ですが、手すきの時は情報交換をしたり雑談したりと有意義な交流の時間となっています。調査員たちのアドバイスでさらなるエコアップを目指します。



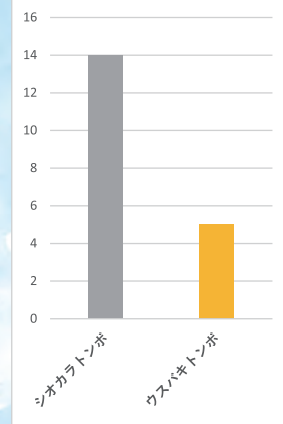
貨物線の森緑道



①4種 90頭
②種数、頭数とも昨年より減少しました。最も多く捕獲されたのは今年もシオカラトンボでした。目視ですがギンヤンマとコシアキトンボを確認しました。



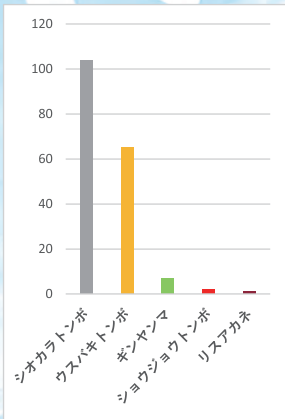
国土交通省横浜港湾空港技術調査事務所



①2種 19頭
②人工干潟周辺での調査。捕獲した頭数は少ないですが、緑地に大型水槽を設置して水場を作成したことが功を奏してか、目視では昨年度より多くの数を確認出来ました。



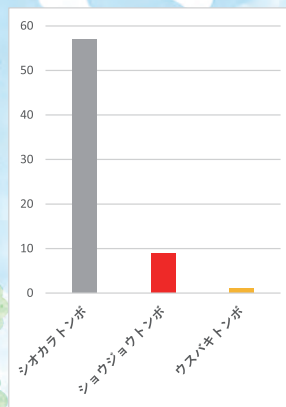
入船公園



①5種 179頭
②水辺はありませんが、トンボの移動の中継地となっているようです。JFEトンボみちでマーキングされたシオカラトンボが1時間後にここで再捕獲されました。



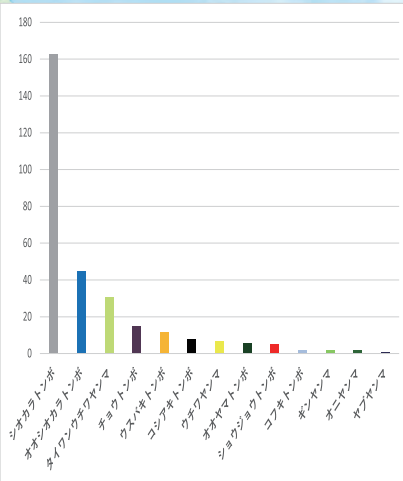
北部第二水再生センター



①3種 67頭
②期間中センター内での工事を実施しており、調査への影響を懸念しましたが、ほぼ例年通りの数のトンボの飛来が見られました。



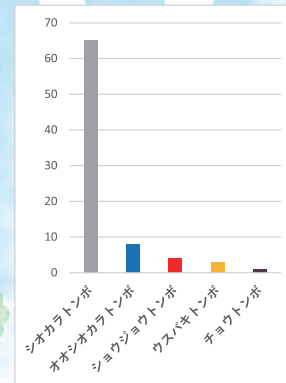
三ツ池公園



①13種 299頭
②ジュニア調査員たちの活躍により13種のトンボが捕獲され、本フォーラムの調査地点の中でも三ツ池と並んで特に多様なトンボが生息することができる環境であることが改めて確認されました。



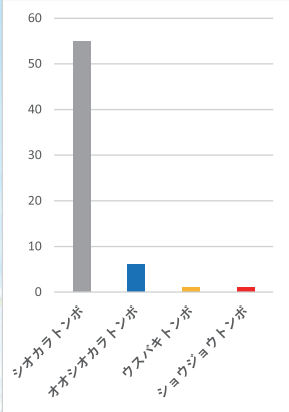
横浜サイエンスフロンティア高等学校・附属中学校



①5種 81頭
②中学生の有志メンバーに加えて、調査員の方にお越しいただき調査を行いました。草木の上で休んだり、水辺に卵を産みつけたりしている様子が見られました。



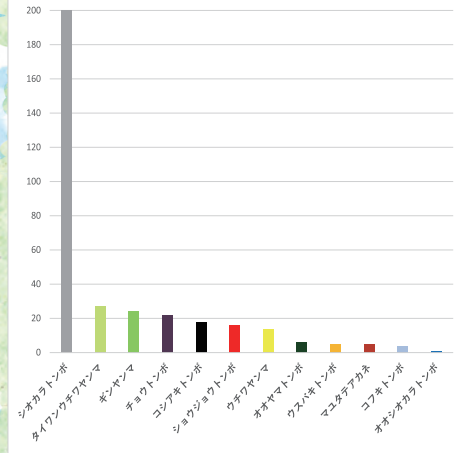
東横フラワー緑道



①4種 63頭
②東横線の地下化で地上部はトンネルを挟んだ公園になりました。青木小学校のビオトープや大綱金刀比羅神社の池からトンボがたくさんやってきます。



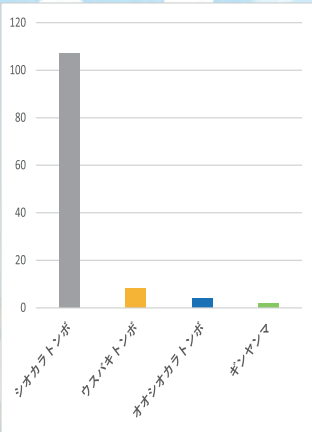
ニツ池



①12種 342頭
②チョウトンボが少なく、シオカラトンボが突出して多かったです。湿地の管理作業のおかげか、マユタテアカネが確認できました。



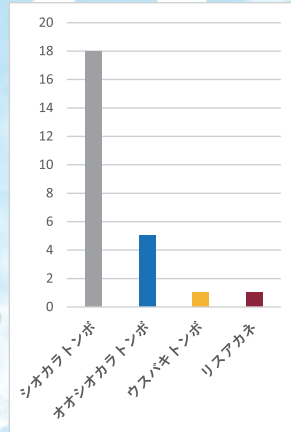
本牧市民公園



①4種 121頭
②ウスバキトンボが数多くみられるのは、良い環境と思います。子ども達と一緒に大人も虫取り網を持って、走り回る風景が微笑ましいです。オニヤンマやマルタンヤンマが見たいです。



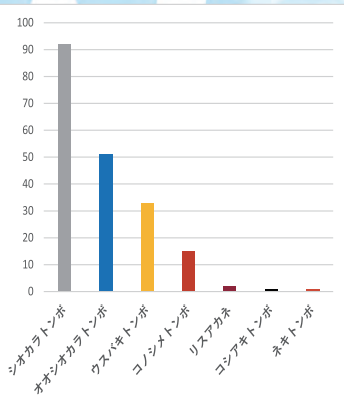
高田池



①4種 25頭
②昨年に続き、今年もリスアカネが1頭捕獲されました。7月の高田池周辺部での昆虫調査時では池前の蔵入口に古いトンボの抜け殻を発見し、当池での羽化可能性も期待しました。



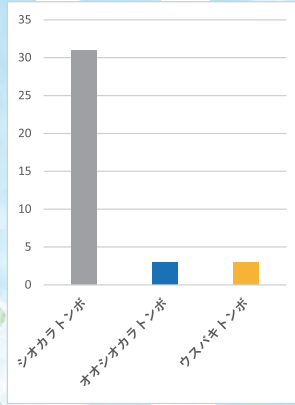
富岡総合公園



①7種 195頭
②本調査では夏の富岡総合公園の特徴として、オオシオカラトンボ、シオカラトンボが他のトンボに比べて1.5倍～2倍捕獲されました。合計で7種195頭を捕獲することができました。



SMS ばいくショップ



①3種 37頭
②今年は、例年調査していた駐車場が整備されて湧き水が無くなりトンボの飛来が望めないため、国道添いの緑地や少し離れた弁天池を調査しました。

